参考資料

684

原発１基分。３人の若者が立ち上げた会社はわずか７年で目標を達成した。

てんでんこ

電気のあした ⑦ ギガワット

わずか7年での大目標達成だった。

2011年3月に東京電力福島第一原発が事故を起こした直後の6月、3人の若者が自然エネルギーで発電する会社を立ち上げた。いまは福岡市に本社を置く「自然電力」だ。

設立から約7年後の18年5月、グループで開発した太陽光などの発電所の合計出力が1メガワット（100万キロワット）に達した。原発1基分に相当する。

創業した長谷川雅也（39）、磯野謙（38）、川戸健司（38）の3人はいまも代表取締役を務める。社員は200人を数え、海外にも事業を拡大した。新しい目標は30年に5ギガワット。原発5基分だ。

創業前、3人は風力発電会社でいっしょに働いていた。だが、騒音や景観などの問題で新規開発は滞っていた。海外で働こうか、と悩んでいた時に東日本大震災が起きた。

テレビで被災地や原発事故の様子を見て、長谷川と磯野は思った。「自然エネをやってきた自分たちが立ち上がらないといけない。これは使命だ」。新会社設立の覚悟を決めた。これに川戸も「ビビビッときた」。

自然エネの電気を大手電力が決まった価格で買い取る「固定価格買い取り制度（FIT）」が始まっておらず、成算もなかった。だが、目標は大きく1ギガワット、原発1基分に置いた。「原発の電気を自然エネに変えるという目標の意味は大きいと思って」と長谷川は振り返る。会社の説明資料に1ギガワットの目標を書きこむようになった。

現実は、12年春れにグループ初のメガソーラー（大規模太陽光発電設備）を熊本県で稼働するまで、経営はかなり厳しかった。

それでも地域還元にはこだわった。風力発電会社につとめていた時、風車近くの住民から夜中に呼び出され、「うるさくて眠れない。止めろ」と叱られるのはしょっちゅう。だからグループ理念に「地域コミュニティ、地域産業のことまで考える」と掲げた。

電気の売り上げの一部を地域の産業振興などに充てるといった地域還元の仕組みを工夫できた。そうした姿勢が評価され、メガソーラーなどの立地を後押しした。

私は、代表例と言える熊本県のプロジェクトを訪ねた。電力会社がこんな関わり方をするのかと驚く。それは風味豊かなクラフトビール（地ビール）づくりだった。（小森敦司）

左から自然電力の川戸健司さん、長谷川雅也さん、磯野謙さん＝同社提供

朝日新聞　２０１９年３月２１日　朝刊　３ページ　東京本社

685

太陽光発電の収入を地域還元する。地元農産物を使うクラフトビールができた。

てんでんこ

電気のあした ⑧ ビール

急成長する自然電力グループ（福岡市）の地域還元策を見ようと熊本県を訪ねた。

「リュックを背負ってね。さわやかな青年だなあと。話をして、すぐに賢い人だとわかった」

熊本市でビール醸造工場兼レストランを経営する鍛島悠作（36）が、自然電力の高尾康太（30）に初めて会った時の印象だ。

2016年4月の熊本地震から数カ月後の夏、いきなり訪ねてきた。東大大学院で自然エネルギーの大量導入を研究していた高尾。この年に入社すると、太陽光発電所の立地に加え、地域還元の担当にもなった。

自然電力は14年3月、熊本市の北東に位置する熊本県合志市に地元企業などと出力1メガワットのメガソーラーを稼働させていた。

高尾は、この電気の売り上げの一部を使う形での地域還元策を探していた。鍛島が材料や製法にこだわったクラフトビールづくりを始めると聞き、飛んできたのだった。

高尾は、ビールの材料に地元農産物を使えば地域還元につながると考えた。熱心な説明に、鍛島も熊本地震からの復興への思いも込めて快諾した。高尾が用意した地元農産物リストをもとに鍛島の試作が始まった。

ハバネロ、スイカ、マンゴー……。2年間にわたる試作を経て、合志市産のハーブ「リコリス」と、熊本県天草市産のかんきつ類「晩柑」の2種で、満足いく風味のビールができた。このレシピ開発に発電所の売電収入から計100万円のお金が出た。

並行して、自然電力グループで農産品開発を担う玉木綾香（35）が、ビール瓶としての商品化のためラベルデザインの作成などを進めた。かねて長崎県の陶磁器「波佐見焼」を世界に売ってきた経験や人脈が役立った。

こうして18年11月、瓶ビール2種の発売にこぎつけた。立地先の農業振興につなげる狙いを込めた食品ブランド「HALO（光の輪の意味）　JAPAN　FOOD」の第1弾という位置づけもある。農産物の生産地を示した日本地図のラベルが目を引く。

鍛島らは今度は、自然電力が小水力発電を地元と協力して始めた長野県小布施町特産の栗を使ったビールの試作に入る。ラベルに新たな地名が加わることになる。

「志」が、たくさんの人を巻き込んでいる」。鍛島の実感である。（小森敦司）

ビールの醸造装置と鍛島悠作さん＝熊本市

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。